

本教學解

矢野玄道著

全

特36

594

館 函 架 號	大日本教育會書館			
	第二室			
	一	三	一	二
	冊	號	架	函

014606-000-9

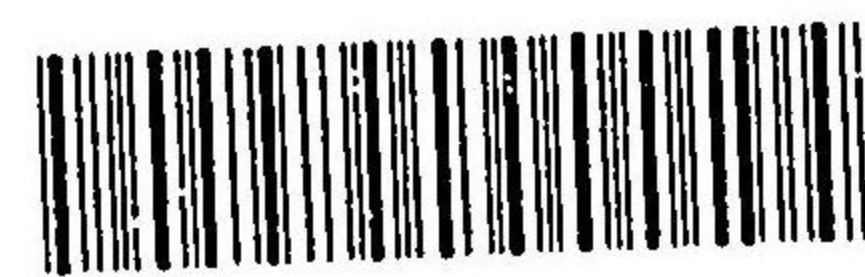
特36-594

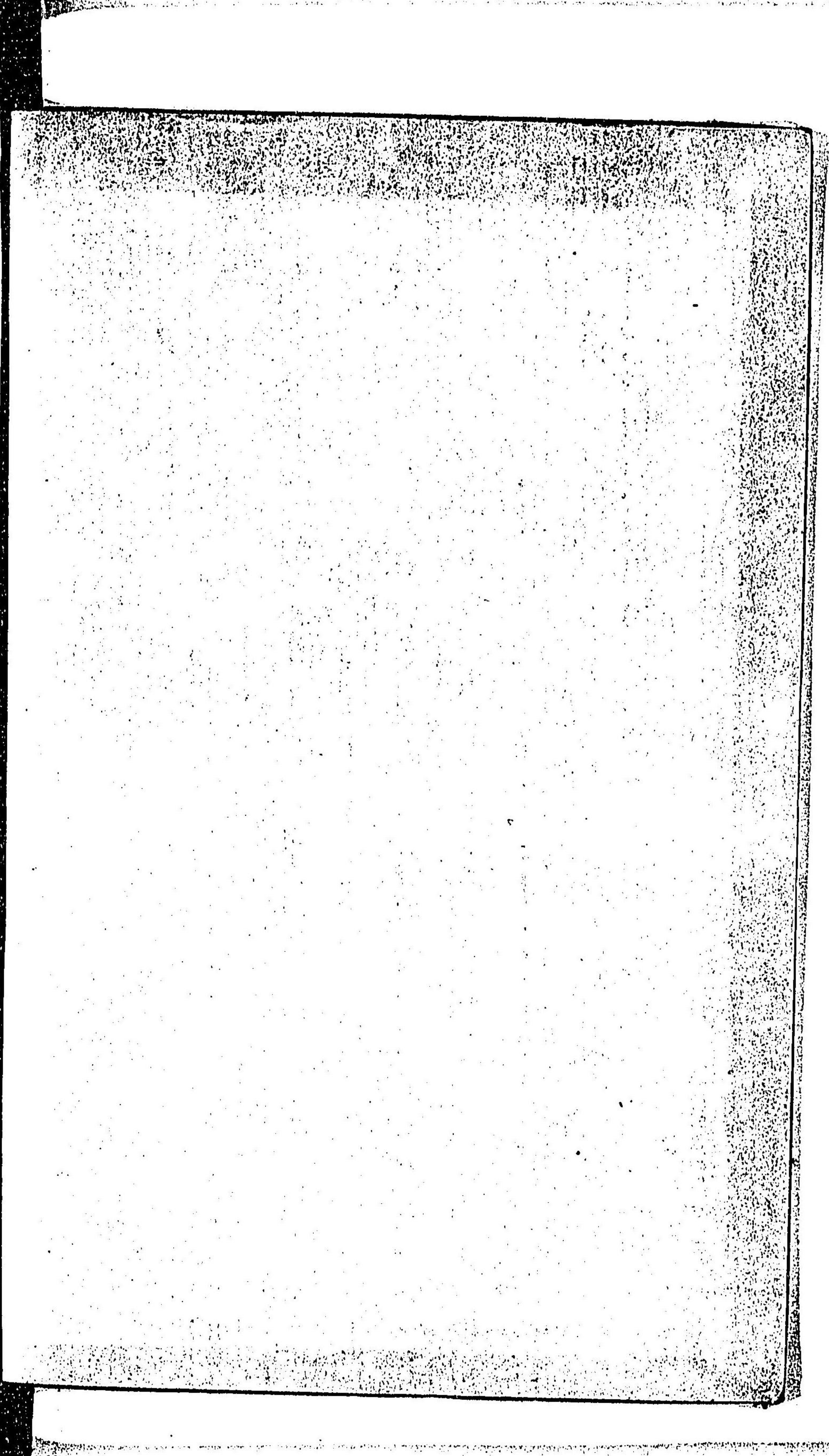
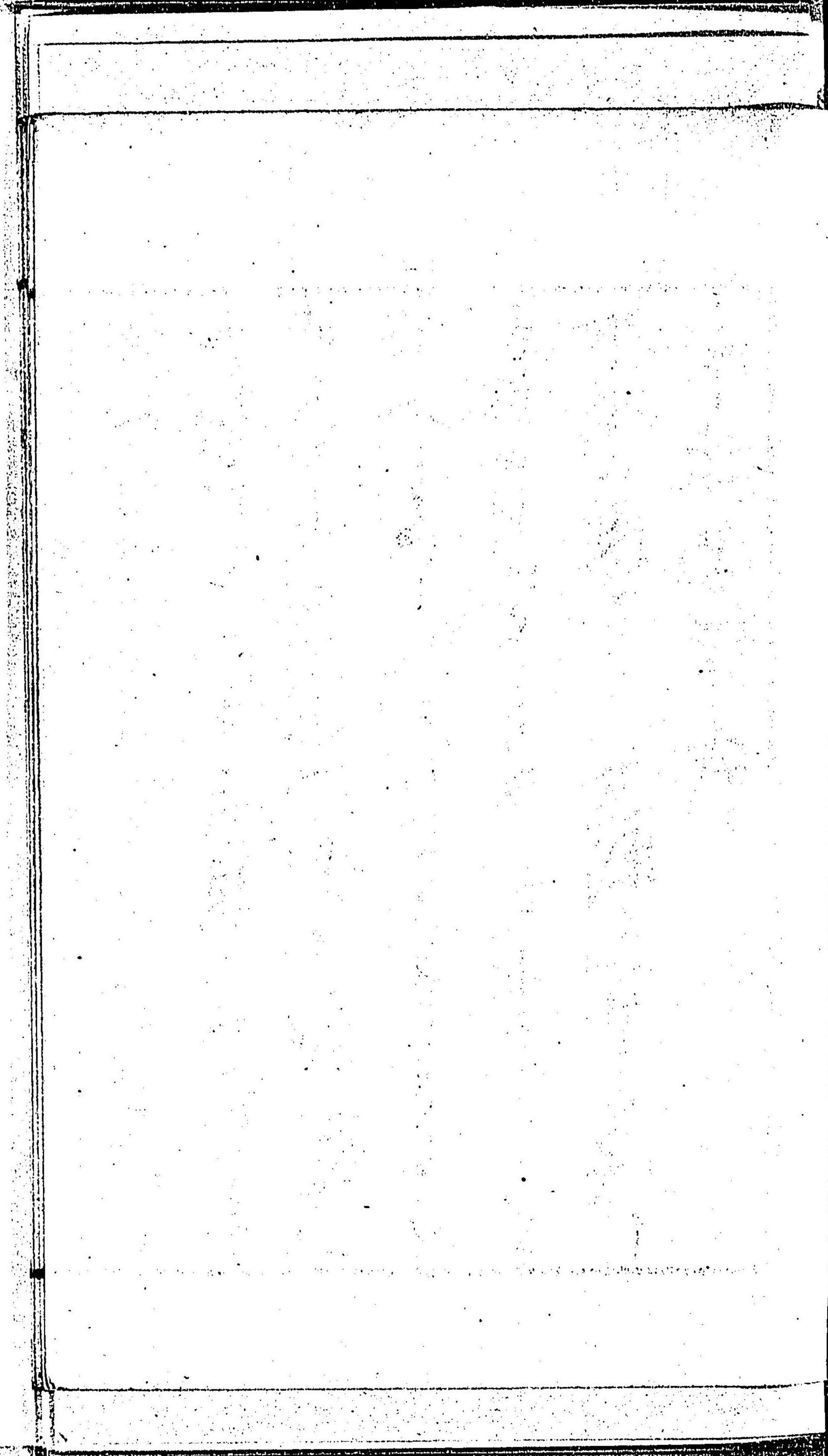
本教學解

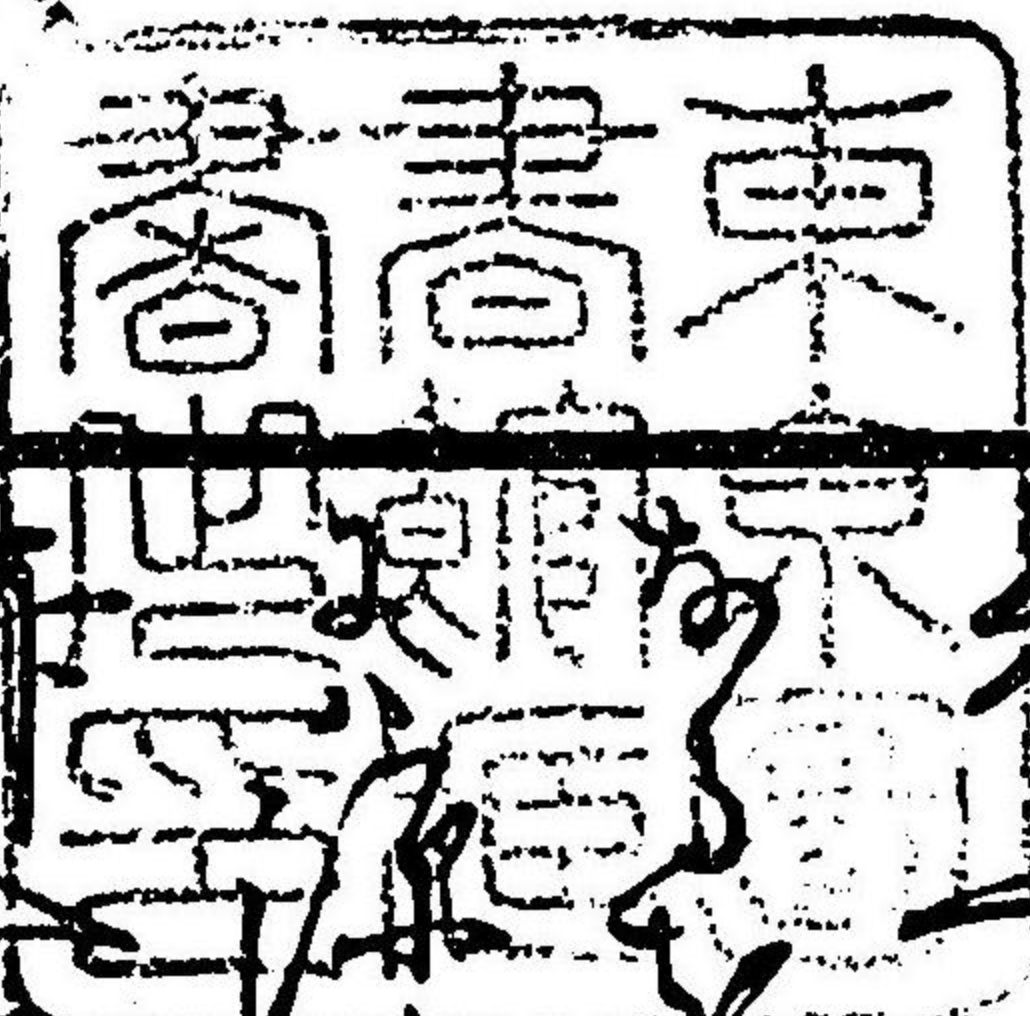
矢野 玄道/著

M12

ABB-1029







本教學解序

水沝の流るるを其源の一かゝると知
 り物を生ぜるを其本の一かゝると
 知るべし人の以て其本を以て其
 源と爲すは其流の下濁る濁る心
 也其源の清く其本を以て其源と爲
 すは其流の清く其本を以て其源と爲
 すは其流の清く其本を以て其源と爲

○本教學解序

○

己神の忠依—己の心を願ふは、天皇
命は行くまはりなりけし—己の心を
大國の大神の御事よ—己の心を
己の心を己の心を己の心に
—己の心を己の心を己の心に
—己の心を己の心を己の心に
—己の心を己の心を己の心に
—己の心を己の心を己の心に
—己の心を己の心を己の心に
—己の心を己の心を己の心に

著るべき—己の心を己の心に
己の心を己の心に己の心に
己の心を己の心に己の心に
己の心を己の心に己の心に
己の心を己の心に己の心に
己の心を己の心に己の心に
己の心を己の心に己の心に
己の心を己の心に己の心に
己の心を己の心に己の心に
己の心を己の心に己の心に

明和十二年五月丁酉

大教正千家考後

本教學解

夫教とを。挂卷も恐き。天皇祖神也。世人をめぐ
く愛惜せ給ふ。大御仁慈の大御慮よ。教養を
以て神習せて。邪惡き方よ面むら。顯世ふて
ハ正善き人と成志。終世入てハ。正善神と
成志とむと。御傳坐る道よ。本教の目ハ。古事
記の序ふ出て。又典教とも稱ひ。此を語傳。亦も
し。書記志もせ。法を。本辞及先代舊辞とも云て。
天武天皇紀よ。上古諸事と見え。弘仁私記。序
すハ。先代舊事とあり。又神語とも。古語とも云

おと聞 即天津祝詞を申せ。のくて本教本辞
えて。の世は傳まる起原。天地の未ど生ざ。と
と。天御空は。大御坐て。天地を鎔造坐し。万
万物をも。此世も始坐る。神魯伎神魯美二
柱。産靈大御神の。御親ら成坐るまふく。元よ
。知看し。故事を。天津祝詞の太祝詞事もて。現
御神とまひ。天皇の御大祖皇美麻命を。此天下
の人民を。篤く仁惠給ふ餘。大君主と定賜ひ
て。天降し奉。給ひし時。大御自のら御言寄し

給ひ。はと其千五百座と。いさ多よ坐る。御子大
神等の傳坐し。見知坐し。聞知坐る。故事をも。其
御裔とあは。八十連綿。次く。遠長は聞つ。ぶ語。繼
ぎ世も弘ま。傳來つる由。吾師大人の古
史徴等。鎮火祭詞を舉て。委。辨明坐る。が如
し。又のく神代の御故事を傳坐る事。何の料
ぞと云ふ。祈年祭。及。大嘗祭詞等。神漏伎神漏
弥命。以。天社。天社。登稱。辞。竟。奉。皇神等。と有。を
思ふ。世は有。と有事。ハ。悉。天神地祇の御心

ふ漏は、事無れど、万機と多る中ふも、神祭を主と爲給ふおぞ。御政の大本ある故よ。皇美麻命の。此天下を治め給ふよ。先天津神因津神を齋祭せ給むおぞを。御言依し賜ひて。云云の事有む。某神の所業ぞ。某神と云くの因縁よ依りて生出て。云々の事を掌る神おまは。おのぐ爲てと。言教子給ふと此御傳りる故。ふ。皇美麻命の御代と。その大詔のまよ。神祭をいと大切ふ嚴重よ仕奉まし。又古代と

也。皇大神等の教詔の多有し徴をも。又衣食住の三物をもて。身體を養ひ。本教もて。精神徳性を養ふ道も。皆皇大神の御量よ出たる證ま。末の露本のしづくとおくれ先ごつ時おそあれ。皆出雲大神。及産土神の御裁判を受奉らて。えあらぬ深契有て。即天皇祖神の大命よ因る事。さてハ大汝少汝大神の御世と。天疎る夷国の蠢民等を。正き方よ教導むとて。委き名目等をも立て。慇懃よ教誨賜る由をも。その著

等^ニ返^ルを^シく^テ論^ヒ諭^サま^タる^ヲ稱^シ白^スむ^方お
 く。い^レどもめ^テた^テ教^語ふ^テ。本^ツ教^の。天^皇祖^神
 よ^リ御^傳有^シ道^の。い^ト眞^明よ^ク知^ラま^ス
 ころ。是^ヲ以^テ鈴^屋大^人も。高^御く^ラ天^都日^抄
 ぎ^ト日^の御^子に^受傳^へま^シ道^と此^のこ^とま^ま
 囿^クふ^傳へ^ハあ^まど^日乃^本道^は家^{の本}
 傳^はは^はと^詠ま^た也^{。諸}天^祖大^御神^等の^のく
 祭^政の^大本^{たる}道^をバ。天^津祝^詞も^て詔^傳坐^る
 故^よ此^を御^能理^と申^し。詔^宣教^令式^法則^師
書格位經彛雅藝業

儀規矩典度刑紀軌憲 等^字を^訓る^是義^{あり}也^{。その}御^能理^やの^て御^教
 令^ふて^{。それ}神^明人^民の^因て^行ふ^{べき}法^則を^{。上}代^の神^皇聖^帝及^御前^の事^取坐^る賢^輔
オホオミタチ 良^臣等^ハ。その^御教^はま^よく^{。御}一^己の^私情^を
 を^交賜^をび^{。上}ハ^天神^地祇^は仕^奉ら^し。下^ハ天^下
 下^をも^祭お^ち賜^ひし^らバ。下^グ下^まで^も。その^御
 御^德化^は隨^ひて^{。よく}お^だひ^は仕^奉ろ^ひぬ^る
 故^よ。天^下を^治賜^ふ事^を御^祭事^と白^し。其^道を^{。惟}
 惟^神と^云ひ^{。は}と^神道^とも^{。古}道^もも^{。天}道^申を^{とも}

あ_レ也。天、比乃里刀咩命、天道日女命を更よて、道主、貴命と申候も、古説のあまきと、亦古道を傳へさせ賜ふ候よ也、負坐イデいで其端倪を申さるよやと所思る考もあ也。は。御大祖皇美麻命アマモリ天降坐セ登時ヌナハチ大嘗祭オホニヘツリ行をせ賜ひ。神武天皇の御政事おとよ。はづ天神地祇を齋奉らせ給ひ。崇神天皇の詔よ。朕ワレハ天社ツツ罔社ワスと。忘る。事コトおく遺ユコる事コトおく齋奉る。せ詔賜ひ。孝徳天皇大化の御政初よも。神祭を先せし給ひ。後あづら宇多天皇ハ。日毎ヒトヒお天神地祇を拜奉イハヒまし。醍醐天皇の御世、末スヘお。朱雀天皇

お遺ユコし坐イマる詔ミコトノコトよも。第一神事を勢イサむべき由を詔ミコトノコトひ。大寶令オホタカラノミコトノコトおも。神祇令カミツツノミコトノコトを最先イマサキよおのせ給ひ。延曆御世ノボロノミコトノコト了成ナゲし官曹事類ツツノミコトノコトまと弘仁。貞觀。延喜の格式キヤクシキさてハ菅原贈太政大臣の詔旨ミコトノコトを兼イハて。撰イリて奏上イハヒまあ。類聚罔史ツツノミコトノコトよも。皆神祇を以て最初イマサキと爲ナシ賜へるよて。大同抄。天長格テンチヤウキヤクあども然シカあ_レし事。推オシて知らは_レ也。されバ北畠准后も。古ハ祭政一致イシとる道を委クニく宣イハひて。神祇官を諸官ツツノミコトノコト此上コノミヤよ置事オクシハ。是神罔の風儀フエビ。天神地祇

を重オモシる故也。とあるら。なくも古道を記取カキトリま
 せりと。先師も稱賛ホメタマハられと。此御く世くの神カム
 祖命ミヤマの神隨カムナカシある道よ依ヨて。政シおち給ふ徴シズよ。如
 むある。さてのれ天津祝詞ある。本教の御書ミツミと
 もハ。現御神イマミコ結大御許モトハ勿論イラモカラよて。のれ五部神
 等ナラ及諸神等の家よ傳來て。彼の底寶ソコタカラとる。三種
 の神寶カムタカラふも亞ツギとる神寶カムタカラぬまバ。天武天皇ハ此
 を邦家ミクニの經緯ニハシラ王化ミツリゴトの鴻基オホモトと詔リキへ。爰コよ上代
 ハ。又天語連アマタリノミ天語歌タリノミ神語歌カミノミちふハ。此家よ傳ツ予
たると。天語歌。神語歌。ちふハ。此家よ傳予

鹽土老翁シホツチノヲヂあどいふ職シヨク道師ミチノシといふも。のゝる職
 後御紀ノミどもよハ。古老コノロとあ。いと後ノチよ家老イヘノヲヂを
 老中オノナカ大老オホノヲヂ老女オホメ等ナラいふも。其遺稱シヨウよや有アルむ。
 有アルり。諸モロの氏ウヂくよハ氏ウヂ上有アルて。此を弘ヒロく遠トホく教誨シヅメ
 賜タマひ。諸國モロクニ了タマえ。國司クニノシ國造クニノツクリあ。て。天皇の大御手ミコテ
 代シノとして。神祇カミヤをも崇奉オホメ。人民タタをもま扱アゆ。お
 ち。宮社ミヤヤシよハ。神主カミ祝禰イハヒ宜等ヨシナラの有アルて仕奉ツクつ。そ
 此コノ氏子ウヂノミコ等をバ。誨導シヅメきけむと所思オモゆる上ノ。語カタリ
 部ベの部下ベノシノと聞キ也。ちふを置オカきて。四方ヨモ四隅ヨスミまで
 也。遍アヘく誨諭シヅメし給タマ予リと聞キえて。大嘗祭オホノチノメ此時コノトキふ。

美濃。丹波。丹後。但馬。因幡。出雲。出雲風土記にも此氏人の事見ゆ。淡路等の国くよ也。詣來しハ更よて。隱岐。阿波等の国くふも。其氏人此あは事。天平延喜の戸籍帳よ見えぬまきぞ。諸国よ多の也し事も。亦推てぞあらはめる。さて件の語部ハ。宣命那と白せる如く。言辭を美麗く文章那して。聊の此神樂。催馬樂。東遊まよ雜藝。郢曲あど類とる状もありて。音聲よ。大小上下等の曲節有るむ事。古書小神名。官名。まよ地名あどよ。譜を挿ふるハ更よて。或説ふ。僧徒の讀經説

法那ぞまはも。然あ也るむ故ふ。聞人の心を感じ動し。免ああらむと云るハ。はる説よて。夫はこ我古風を學取まは所爲那るふ。論あるまきバあ也。かく遠皇祖等ハ。本教を天下ふ遍く敷施ませゆし。のバ。天国の御風儀の如く。海内ハ大同の化ふ往嚮て。無爲よ治まる故よ。古語ふ。神隨言舉げせぬ国。又浦安国ともいひ。外国よ也。神国。又大人国。君子不死の国。衣冠禮儀の国あども。稱白し。ぞのし。ざるを禍神の荒心と。他国の

道等ミチノトふイタ甚シくフカ深コくマヒ。醉サケ惑マドえさせ給タマ牙ハ正シし御代も
有アしよシ。天ツ神カミ因リ神等の御守ミモリハ。日ヒよけスふ薄ウソく
成ナリ來キんニむカシ證カシハ。天德テンデクまニ寛ヒ弘コ。長久チカキ度トキの大内オウチ此
御ミ炎ツナガシ上ノ。神鏡カミタマの御恙ミヤトあリて。遂ツヒは御政權ミシマツの藤
原氏フジノハラノウヂよ移ウツり。壽永スエニギよ。神劍カミツルギのハ込マさせ給タマひてとシ。
兵政ヘイセイの源氏ゲンノウヂよ歸ヨリて。武家ブケちハふもの出來キて。世ヨハ
常トコ夜ヨ往ユク那ナ比ヒ。ひた亂ミダれよ亂行ミダユク志シを。玄家ゲンケよ。遠トホ日ヒ、
復トドといヒ。或シハ否イナ往ユク泰來テライとも。天道テウダウ循環ジュンガン往ユクてハ
復カヘあリぎキ云イハひ。鈴屋スズヤ大人オトナも。よキ事コトふまグ事コトいカお

ぎはノのオぎキを。吉ヨシきコトといカおグ世ヨの中ノ此道コノミチと
よマれ。まニ世ヨの中ノ。よギぎキ禍事ワガコト往ユクのはハ。中ノ
とソ千チくニ此事コノコトらニ成ナリおスる。と詠ユメまタるニ如ニく。古コふ
立タチ復カヘるニべき氣運キウンの來キて。後栢原キチノハラ天皇テンノウの伊勢イセ大
御神ミコトよイみじくニ仕シ奉ホウ給タマひ。後陽成キチノハル天皇テンノウの殊コトよ
叡心エココロを本教ホンケウよ用ヨウひサせ給タマひて。神代紀カムヤマトノキニギを摺卷スリマキ
ふナ爲ナ志シ免賜メナシふ時トキふ。儒佛ニホブツハ枝葉エダエたシ。神道カムミチハ根ネ
抵ヒたシ。詔ミコトノリ出デて。神祇カムヤマトノミコトノリの御祭事ミマツリノコトをも。鄭重テイジュウよ行ユク
賜タマひシハ御世ミヨの泰平オウダイよ成ナべキ基モトよテ。時トキも。

熱田、大神此鎮坐に邊の國地よ也。織田、豐臣、徳川此三大臣ともよ出坐て、天下を盡よ掃平て。諸大名等を率て、皇室を尊崇仕奉られ奉らる。世の言ぐはよ謂ゆる。前後の三忠といへる大臣等と齊ぬ。いとよそ志き功勲よ取むおとしぬる。はて水戸、贈大納言よ、徳川氏の志ぞうよて、畏おくも皇統をあらぬ方よ申枉る。腐儒輩此あはを憤らして、大日本史等を著志て、天朝の御稜威を、四方よ顯揚赫くし奉られ志た。舊

九新國史。まよ本朝世記の後ハ、撰史の擧も、久く打絶しを、興坐しのみあらび。此よ也世よ。古き典籍も、漸く現出するハ、いとよいさをよあむ。はよ此頃と也。神道者取どいふ流も興て、皇室を尊崇奉る事と、の取よく知たまども。その説ハ、趙宋の、理學易説を交へたる説よて。今見てた。いぶせく心もりぬ事此と取む多かるを。爰よ身ハ下あぶら。羽倉、岡部、本居三人の宇斯等此相つぎて、本教學よ仕奉らまて。正し交

道を説示せ坐あぐよ正ぞ。世人もおぶ志き雲
霧れ晴行て。あ形おも志ろと皇大御神れ道あ
は事を知そ。免よるを。ぬの氣吹屋大人い。彼
三人、宇斯の説を本として。心とく測得のた
き。幽世のおぶろをさすよ。遠く深く考明して。
猶外圍くよも。皇神れ道の遺在有正やと求尋
ぬて。有りと引來おく。寒暑をも顧志晝夜をも
こく生涯いそ志み勞仕奉りまして。隨神あ
る皇道を集て大成らまこる功業ハ。其著坐せ

る書の千卷五百卷と多のほを。とく讀味ひて
知る。卷のりり正。案や此大人等の形の正せむ。
萬歳長夜れ如し。といふらむ如くよ有經那ま
し。我のく本教れ。春の朝日れ。志み榮えたる如
く。清明よ成もて去しを。やめて天皇祖神れ大
御心よて。天御神因御神等。及御く世くの天皇
等よ對奉ても。いひ志らむ志孝ある所行ある
を。數百年の間と絶よし御政の上代よ立復正
て。現御神れ大御自聞召を。めでたき御代と成

小しも職と志て皇化の鴻基。邦家の經緯たる
本教を世よ説明め廣布坐る。比類ぬき功績よ
因るまを。今ら犬うつ童も知ぬべのめまむ。ひ
いらきて云でも有ぬべし。さても亂世のあさ
ましさハ。遠天皇比鴻基根抵と。建置き給ひし。
元の元もは神事をバ。のたへよして。あらぬ道
小れと心を入れたるけふや。大同の頃。齋部大
人の預よ。やぶとあき神胤の衰去し事を殷勤
よ。憤に歎悲れしも明的く。終よ朝廷よぬくて

はえあらぬ。神胤皇別の氏人等の。始衰牙失た
るハ。恐くも。皇室の御衰坐る非よて。言むま後
那く衰ぬ。大中臣氏をおきてハ。齋部氏さへも
衰へもまの比天語連あど乃氏人も聞え比那
に。語部の古事語る事をも。世よをさく聞
知れる人さへ那くあにハ。あの比口をしん
まど。おち竹取。伊勢。源氏。まと世つぎ今昔。三鏡。
榮花那どを初めて。何くま比物語ぶみ比多く。
世くふ出来しハ。さきものよ古の遺風よて。そを

語る風俗も琵琶法師が。平家を語るよ遺^ユに
了。又一變志て淨瑠璃ちふ物と成^レに。此も東遊^{トウユ}
此一變して。宴曲今様ま^マと。古き宮比^{ミヤヒ}ハ失^シて
謠曲あど、成まるが如く。あてあるあた^アに^ニハ。を^ヲと^トま^マき。ち^チよ^ヨい^イづ
るくも何らぬ詞^{コト}どめれ多^タの^ノ^ハ字^ジ。主^ミや親^{オヤ}の^ノ^ハ響^{カキ}
討^{ウチ}といふ物の中ふを。は^ハと^ト善^{ヨキ}事^{コト}を^ヲ勸^スめ^メ惡^{アクシ}事^{コト}を^ヲ
戒^{イシ}め^メね^ネど。お^オう^ウし^シま^マふ^フし^シあり^リて。そ^ソを^ヲく^クづ^ズつ^ツ三^{サン}
絃^{セン}の^ノ琴^{コト}よあ^アは^ハせ^セあ^アど^ド志^シて。共^{トモ}よ^ヨ手^テだ^ダま^マの^ノ打^{ウチ}あ
げたる小^コハ。そ^ソれ^レの^ノみ^ミを^ヲ今^{イマ}小^コう^ウ扱^{サツ}して。と^トく^クも

あ^アを^ヲま^マを^ヲ見^ミま^マは^ハよ^ヨに^ニげ^ゲよ^ヨは^ハぞ^ゾか^カし^シと。あ^アき^キ見^ミ
笑^{ワラ}ひ^ヒみ^ミ。髪^{カミ}さ^サの^ノ立^タち^チあ^アど^ドな^ナく^ク見^ミる^ル人^{ヒト}心^{ココロ}を^ヲ感^{カン}動^{ドウ}
し^シむ^ムあ^アる^ルを^ヲや^ヤの^ノて^テ古^コき^キ語^ゴ部^ブの^ノた^タみ^ミよ^ヨて。古^コ
の^ノ遠^{トホ}神^{カミ}祖^ソの^ノ深^{フカ}き^キ大^{オホ}御^ミ量^{リヤウ}と^ト音^{オン}樂^{ガク}の^ノ事^{コト}を^ヲし^シも^モ思^シ
や^ヤに^ニ奉^{ホウ}ら^ラま^マて。今^{イマ}一^{ヒト}變^{ヘン}ら^ラむ^ム道^{ミチ}よ^ヨ至^{イタ}ら^ラむ^ムと^トも^モい
ふ^フべ^ベく^クや^ヤ。さ^サて^テ師^シ說^{セツ}の^ノ如^{ごと}く。世^セふ^フ視^シ息^{ソク}ふ^フる^ル人^{ヒト}ハ
更^{オシ}あ^アに^ニ。一^{ヒト}切^キ萬^{マン}物^{モノ}と^トも^モよ。天^{アマ}神^{カミ}地^チ祇^キの^ノ御^ミ政^{セイ}よ。漏^{モロ}
遺^{オシ}る^ル物^{モノ}と^トて^テハ更^{オシ}よ^ヨ有^アる^ル事^{コト}あ^アく。そ^ソれ^レ御^ミ政^{セイ}ふ^フ知^チ
ら^ラば^バく^ク隨^{したが}ひ^ヒる^ル事^{コト}ふ^フして。苟^{オノ}人^{ヒト}の^ノ万^{マン}物^{モノ}の^ノ長^{チカ}

をあるハ。教養あはが故あるまを。又後世より。
必^カ妻^メ子^コ珍^シ宝^ツも。官位從者も。一^ニたぐ。己^ノの靈^{タマ}魂^{シヒ}
物も齋^{イハ}物とてハあく。
のみ。冥^{カミ}府^ノ不^レ參^マ詣^{イタ}りて。小^コ事^ノハ産^ウ土^ノ。大^{オホ}神^ノ。大^{オホ}事^ノと
出^イ雲^ノ。大^{オホ}神^ノの明^アく赫^アくふるは。偏^ヒ黨^ノあま。直^チく正^シ交^ウ
大^{オホ}御^ノ政^ノよ。そ^レ此^ノ平^ツ生^ネの言^{コト}行^ヲを。詳^ツよ御^ノ裁^サ斷^ダ有^リて。
善^{ヨシ}人^ノハ褒^ヨ賞^コを蒙^カり。惡^{アク}人^ノハ罪^ツ戾^ニを降^シ賜^ヒひぬと。
世^セ人^ノの。天^{アメ}道^ノを是^シる非^アのをも。天^{アメ}命^ノ常^ニ形^シしあど
疑^{ウタガ}惑^ヒひしも。此^ノ時^ノ不^レ初^メて定^リて。の^レ此^ノ世^ヲを亂^シす。
亂^シ臣^ノ賊^ノ子^ノの輩^ハ永^ニく苦^ナ患^ニを脱^ガれ得^ズ。善^{ヨシ}人^ノ君^ノ

子^コハ。長^{ナガ}よ幸^{サキ}福^{ハヒ}を蒙^カす。その御^ノ政^ノよ從^ヒ奉^ル
らざるハ。宇^ウ宙^ノの間^ノ今^{イマ}古^コよ。一^{ヒト}人^トとして。え脱^ツる
依^ヨ者^ノ形^ノき神^{コト}理^ヲを忘^ルも。よく悟^サ得^レたらむ人^チあ
人^{ヒト}ハ。本^ホ教^ノ學^ノ不^レ仕^シ奉^ラず。えあははじき道^{ミチ}理^ヲ
を。よく辨^シ知^ルるべく形^ノむ。あ^ノの道^ノよ。千^チ里^ノ此^ノ遠^{トホ}き
に往^{ユキ}て。求^{モト}めぬと。あ^ノの道^ノよもあらば。ま^ニ恠^ケし
き難^ク苦^シの修^{シュ}行^ノあはでハ。得^レぬた^ノ死^シ道^ノよもあ
ら。專^{セン}彼^ノ遠^{トホ}天^{アメ}皇^ノの詔^{ミコトノリ}に如^シく我^ガ本^ホ教^ノハ皇^ノ化^ノ鴻^{オホ}基^ノ
と。り。他^タ國^ノの道^ノハ。枝^エ葉^ノたる故^ヲを辨^シへ。物^{モノ}よ本^ホ末^ノ

輕重オキカレキまこと内外尊卑の分あはれおぞか知チ也。近く
を吾ガ身心をも。家内をも治ツラめ。父母よをく事ツす。
親族を親ウツび。遠トホくハ天神地祇ツよ。大君オホミコふ篤ツクく仕ツク
奉マツロひて。其家業を恪イソシメ務ム免ハ。又己コこ此分ホドクくよ。御政
ふも仕奉ツクつ。世人をも廣く教ツク導ミきもし。篤
く濟ス助ヒタもせざるぞ。惟カミナ神の道ミチハ概略アラハレふら有アらる。
ちまチバ鈴屋大人も。心ココロざ子どもはのしらせざ
て靈タマ幸チをふ。神の御志ミコノシ己コぎ助タけまツおろへ。まこと
天地アメノチの神カミハ惠タメしあのチせセむ。一日一夜ヒトヒトヨも有アりえ

てまチしや。とも詠ユまシとシ也。さセをいハすト。幽冥ユウメイあど
此道オキミチの蘊オキ奥ロふ至ツてハ。今イマそレ此コノ方カタ一イツをも盡ツクしえ
ざまチむ。委ツ曲バよシ。神典皇典カミノミチミコノミチまシと令ミコトノ律リツ式シキ格カク及オ諸シヨ
家名記等イヘナカキトウハ更マあシ也。のレ此コノ四シ人ニ宇斯等ウシトウハ著書シヨよ
因ユて見ミべシぬ。又本教ホンキョウよ志シを入レて。正タき善ヨき人ニと
あラむ徒トマは。先師センシの玉タマだシを交マのルて祈イらシあシ世
世セ此コノ祖オヤの御祖ミオヤハ神カミハ幸チひをシと詠ユまシとシるヨ
則スレバ取リて。恐カシくも皇大御神スメラミコノカミのわクらハはシ。人ニと生ウ
しめ給タへシる悦ヨクび。又人ニを忘ワすも。わキきて愛メ惜シみ惠タメ

み。うつくしそオモホレ思看行を大御情をコトとく心肝キモよ
 銘シしとめつ。事物コトぶとよ慎ツシたまは仕奉りて。
 天地万物の大元祖オホミとも。大君皇キミとも。大師主と
 も大坐オホミを。天皇祖神オホミ。及天神地神等ツ。はと天朝の
 窮極キハミぬき大御徳ミの恩頼ニハ申奉るまでもなく。
 のく本教を説明トキさまたる。四人宇斯等の功績イサ
 をも。造次ツクリよも念奉らば。心力ココロ此及ぶ限カを盡ツクし
 て。日よけふ篤ツクく深フカく。崇敬アガリひ仕奉て。上ハ大御
 代オダを。うきはときハよませ奉るべく。天下を安

泰ヒよと祈イ白し。下シ己ミグ身家ミ親族ウケをぬ。もなく
 恙ツなく有アらせ賜タマ子と。乞コヒのこ奉ツるタきハゆガざハあ
 めル也。此コトをシのラ人トも報本ニ及ビ始トと云て。よき行
 の道ミチあるを。姫周代ヒメよシ動ウも変れバ古傳コトを蔑
 如ニを流も起まシく。漢代カンまでモはシも故案
 を違子ビ有リ來シとあど。師説シは因て記せる
 物モノもあり。又マのら國ノこあらば印度イン國ノも古く
 天神テンの此道ミチを傳へ坐る由委キ師説シあれ
 バ。他カ此コト諸國シヨクも此よ准子テ知ラるめり。のく
 仕奉シバ。ぬむにハ。そまやのて。惟神カミある道ミチよて。
 惟神カミある政シよ從ひ奉る己ざルしあまむ。
 義カミを神宮ミヤ古記コキ等トよ因て委く考記セる六人部
 氏ウヂの説も余説モあれど。長ナれど今イマハ略を扱

此世も後世も身め家も親族もオモツケカラぞおしへよ安ヤスシラ。
なく平ヘラけく。千世よ八千世ふ。いや富トミよとみ。い
や榮サカえよはのばえおむもれお正タカのし。いでや
神カミろぎの神カミれをし牙の道をお交マツカて。正タカしき道
の世よあら免やも。平、矢野玄道敬み惶みも忘
るワスレ。

明治十一年十月

明治十一年十二月廿三日出板板権御願
同十二年一月廿三日板権免許

氣吹舎藏板

定價十二錢

著述人

愛媛縣士族

矢野玄道

東京府下麹町区

下二番町七十番地寄留

出板人

東京府士族

平田胤雄

東京府下本所区

柳島横川町十一番地

○官本教學畧解

小本一冊 刻成

○本教學解附

○全

○許官本教學神号


一幅

刻成

○許官本教教會祭神号

大小各一幅

刻成

○本教學解講義

小本

一冊



嗣出

○平田神社緣起

小本

一冊



嗣出

○許官平田神社畧緣起

一幅

刻成

○許官船魂御神号

一幅

刻成



